

〔 7 〕 伸銅（日本伸銅協会）

産業廃棄物最終処分量削減目標

2010 年度において、1990 年度比 93%削減する（0.1800 万トン以下に削減）

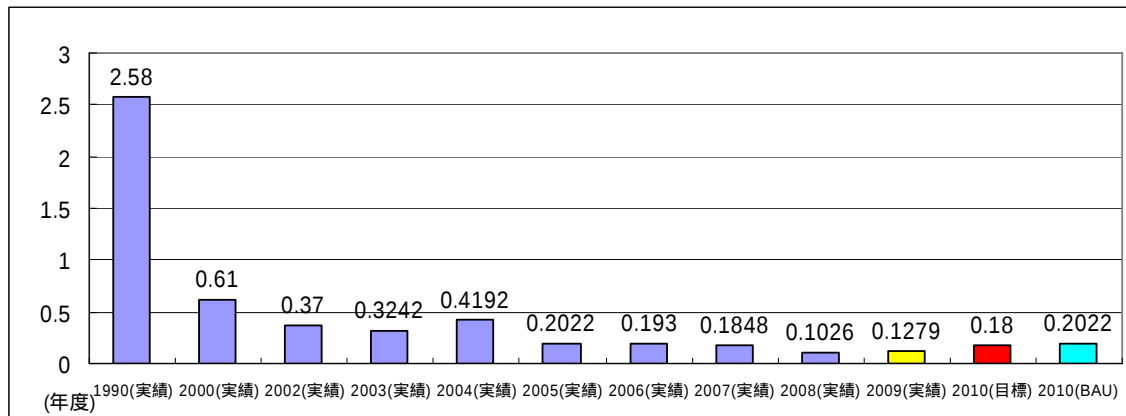
業種別独自目標（産業廃棄物）

〔最終処分量原単位〕：2010 年度において 1990 年度比 0.084 以下に削減する。

1. 目標達成度

(1) 産業廃棄物最終処分量

（単位：万トン）



カバー率： 84.6%

〔算定根拠：算定根拠 A:回答社全生産量、B:会員会社の総生産量

カバー率 = $A/B \times 100$ 〕

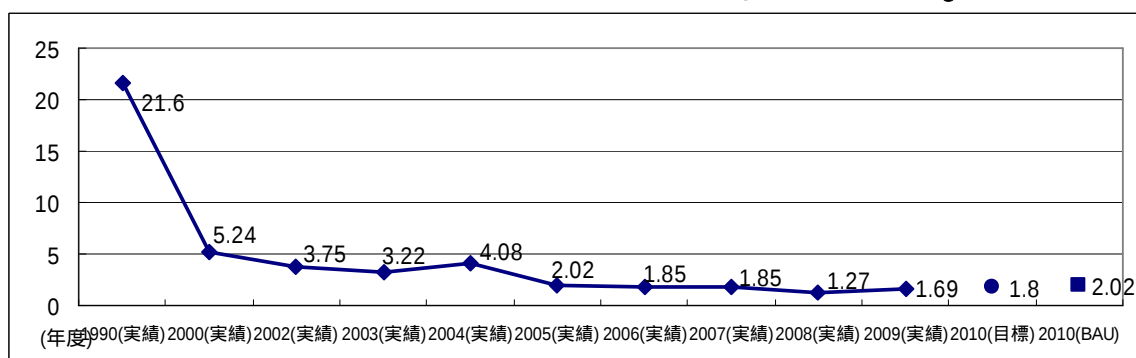
2010 年度 B A U は、2005 年度の実績値をベースに算出

〔算定根拠：2005 年度以降、生産量が同水準でゼロエミ化を実施しなかった場合及びメーカーが日常の削減努力を実施しない場合とした。〕

(2) 独自目標の達成状況

産業廃棄物最終処分量原単位

（最終処分量 kg/生産量トン）



指標の定義・算定方法等

〔定義・算定方法：最終処分量原単位〔最終処分量 kg/伸銅品生産量〕〕

カバー率： 84.6%

〔算定根拠：算定根拠 A:回答社全生産量、B:会員会社の総生産量

カバー率 = $A/B \times 100$ 〕

2010 年度 B A U は、2005 年度の実績値をベースに算出

〔算定根拠：2005 年度以降、生産量が同水準でゼロエミ化を実施しなかった場合及びメーカーが日常の削減努力を実施しない場合とした。〕

2. 主要データ

(1) 生産量・再資源化量・最終処分量・再資源化率

年度	1990	2000	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2010
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	目標	BAU
生産量 〔単位：万トン〕	119.7	116.4	98.8	100.6	102.7	100.3	104.4	99.8	80.7	75.4	-	—
a:再資源化量 〔単位：万トン〕	1.031	5.099	4.36	4.972	4.132	3.781	3.125	3.319	2.873	3.385	—	—
b:最終処分量 〔単位：万トン〕	2.58	0.61	0.37	0.324	0.419	0.202	0.193	0.185	0.103	0.17	0.18	0.202
再資源化率〔%〕 $b/(a+b) \times 100$	28.5	89.3	92.2	93.8	90.8	94.9	94.2	94.7	96.6	96.4	—	—

3. 目標達成への取組み

(1) 最終処分量削減のための取組み

別表参照

(2) 独自目標の達成に向けた具体的な取組み

最終処分量の原単位を 2010 年度において 1990 年度比 8.4% 以下に削減するための具体的取組みとして、別表に掲げる対策を着実に実施してゆく。

4. 循環型社会形成に向けた取組み

製品のライフサイクルを通じた環境負荷低減への取組み

伸銅エネルギー環境対策委員会による産廃削減事例報告や情報交換による相互研鑽を推進。特に、ゼロエミ化達成工場への見学会や講演会等の実施を継続。

ゼロエミ達成工場の一メーカーでは、伸銅業のゼロエミ活動の取組みを、県内・東京等の講演で紹介し相談にのっている（同業他社からの依頼で産廃処理の指導に協力）。更に、ゼロエミ化活動を通し、再資源化の質の改善「サーマルリサイクル」から「マテリアルリサイクル」等に変えることにより、省エネ・省資源・コストダウンを同時に実現できることの成果を同業他社へ横展開に向け努力していく。

〔別表〕

平成 21 年度実施内容

- ・ 廃アルカリ：処理工程の改善による脱脂液の削減（継続）（約 6t 減）
- ・ 廃油：処理工程の改善（継続）（約 3t 減）
- ・ 廃棄物（廃プラ）の減量、減容（廃樹脂パレリサイクル化、廃フレコンリサイクル化検討）
- ・ ポリテープ再使用化の実施（業者変更（1 円/kg→10 円/kg）月間 9 千円→9 万円の収益化）
- ・ 両面コピーの推進、電子媒体利用の促進（複合機 PDF メール機能追加、書類電子化の推進、両面コピーの標準化）
- ・ 一般廃棄物内の紙類分別徹底による、廃棄物排出削減と有価物化率の向上を図った。
- ・ 含油ウエスは多少の汚れであれば数回使用し、排出量削減を図った。
- ・ 社内及び業者のごみ持帰り指導し、廃棄物排出削減を図った。
- ・ 分別収集の徹底によるリサイクル化の拡大（産業廃棄物業者のデータ活用）
- ・ 紙の購入量の削減（新規購入の把握、裏紙の使用実績把握）
- ・ 廃油減溶化による施策（エマルジョン加工油の削減及び起業化検討）
- ・ 外部委託処理量の削減
 - 廃油排出量の削減（排出量目標値：10.0t/年，実績：3.7t/年）
 - 汚泥排出量の削減（排出量目標値：10.0t/年，実績：8.5t/年）
 - 特別管理廃酸排出量の削減（排出量目標値：13.5t/年，実績 1.2t/年）
 - 廃プラスチック類排出量の削減（排出量目標値：10.0t/年，実績 7.0t/年）
 - 紙木屑類排出量の削減（排出量目標値：180.0t/年，実績 176t/年）
- ・ f 廃油の有価売却量の向上（廃油発生量減少したが、略昨年と同量確保）
- ・ 区分投棄の徹底（特に、リサイクルウエス、売却可能紙の選別）
- ・ 木製パレットの修理・再使用の推進。
- ・ 軽量タイプパレット使用への移行推進。
- ・ 産廃→有価物化の月次折衝の継続（汚泥）
- ・ 産廃処分先の視察（廃油）
- ・ 燃えるゴミの分別強化：カタログ、メモ用紙、封筒、広告などを別の箱に溜め、雑誌類として業者へ持ち込むようにした。（投資額 0、効果あり（燃えるゴミを大幅に削減できた。））
- ・ 残飯の削減：食堂から出る残飯を減らす為、各人がご飯の量を申告するよう指導した。（投資額 0、効果 - （前年度と変わらず。残飯量は横ばい。））
- ・ 社内各部署へ廃プラ、木屑はもちろんのこと、一般廃棄物も含めて、すべての廃棄物減量化へ協力を要請。
- ・ 廃プラ内の見直しに伴う有価物化の推進。
- ・ 一般廃棄物のミックス紙の有価物化。
- ・ 汚泥等各種産廃業者の変更による処理費用削減。
- ・ 電気分解による銅イオン回収で廃酸の再利用の継続。
- ・ 脱脂液の変更により、廃アルカリの委託処分廃止。
- ・ 油漏れ対策等、廃油の抑制。
- ・ 廃棄物の分別徹底（金属くず 29.3%，汚泥 18.8%，紙くず 20.5%，廃油 + 3.7%，廃油 + 30.2%，鋳さい + 5.8%，ばいじん + 14.4%）
- ・ 廃棄物の分別徹底（PP ロープ、ダンボール等のリサイクル）（10.6%の廃プラスチック）

ク削減)

- ・ 廃油の有価での買取り (32.3%の廃油削減)
- ・ 酸洗い設備の修理・補修 (21.2%の硫酸使用量削減)
- ・ 各設備からの漏れ量、廃油発生理由の把握と改善策の実施。
- ・ 廃ビニール、廃プラスチックの発生量の把握と有価物化推進。
- ・ 濃縮廃液発生量の把握と改善策の実施。
- ・ 油水分離により廃油の産廃委託量を減らす。(実績: 有価物化 70,690L)
- ・ 木製パレットの社内再生により、木くず産廃量を減らす。(実績: パレット再生量 40,753 台)
- ・ 廃酸の社内処理により、廃酸産廃量をゼロにする。(実績: 社内処理量 121.27 m³)
- ・ 廃油 (油泥) のリサイクル化 (燃料化) 実施。(実績値: 18.6t/年)
- ・ 廃プラスチックのリサイクル対象アイテムを追加。(実績値: 2.2t/年)
- ・ 処理ルート of 複線化 (新規の運搬並びに再生・処分先を検討)
- ・ 廃プラスチックの燃料化廃棄物処理からプラスチック原料化 (有価売却により、廃棄物対象外) を推進中【細分化等分別の徹底実施】
- ・ ウエスの洗濯リユース使用システム継続【業者と連携】
- ・ 生ゴミ処理機によるゴミ削減の適用拡大。
- ・ 再生紙回収対象の拡大 (業者への交渉) による回収量増による産廃削減。
- ・ 埋立て処分対象の塩ビ、ゴム類の一部を鉄鋼の溶鉱炉への脱酸剤として再資源化実施。
- ・ パレットの廃却基準の見直し (パレット廃却基準を明確にすることにより、廃パレットを削減した。廃パレット: 150t 減)
- ・ 汚泥の水分分離による減量化 (各汚泥を一旦ピットで受けて上水を社内処理し、汚泥のみを産廃処理とすることによる減量化を実施した。汚泥: 250t 減量)
- ・ 不要な木パレットは作らない。(木くず発生量が若干であるが減少した。)
- ・ 製品を梱包するパレットの仕様で顧客要求の無い物は簡易的な梱包ですます。
- ・ 埋立処分となっていたレンガについて、再資源化の方策を検討し実施し、ガレキ類の埋立処分をゼロ化した。
- ・ エマルジョン系廃油について、フィルターにてろ過し再生利用する事により廃棄物を削減することを検討した。
- ・ 排水処理設備にて発生する脱水汚泥を乾燥し含水率を低減することで減容化を行う試験を実施。今後設備導入を検討する。

平成 22 年度の活動計画

- ・ 分別の徹底によるリサイクル、リユースの推進。
- ・ 廃プラの減量・減容 (フレコンバックのリサイクル化)
- ・ ポリテープのリサイクル有価物化。
- ・ 社内清掃屑などの分別管理 (回収屑の分別、重量測定による再利用化)
- ・ 木材パレットの再利用化。
- ・ 分別の徹底で一般廃棄物排出量の削減。
- ・ 紙類の分別徹底による有価物化の推進。
- ・ 含油ウエスの削減。
- ・ 突発故障による廃油、廃液の削減。
- ・ 平成 22 年度 産業廃棄物の削減 (外部委託量 + 再資源化 (-)): 目標 255t 以下にす

る。埋立処分量：5t 以下にする。

紙の購入量の削減。

汚泥処理頻度・発生源抑制の検討

社外再資源化(-)の減量化。

・再資源化率の向上（再資源化率 98%）

・非再資源化産業廃棄物の削減

廃油排出量の削減 H21 年度実績 3.7t/年，H22 年度目標値 3.5t/年

汚泥排出量の削減 H21 年度実績 8.5t/年，H22 年度目標値 8.0t/年

特別管理廃酸排出量の削減 H21 年度実績 1.2t/年，H22 年度目標値 1.0t/年

廃プラスチック類排出量の削減 H21 年度実績 7.0t/年，H22 年度目標値 6.5t/年

紙木屑類排出量の削減 H21 年度実績 176t/年，H22 年度目標値 175.0t/年

・廃棄物最終処分量・率（5t/年未満，1%以下）の維持。

・廃棄物・有価物発生量の抑制・維持（7970t/年以下）：有価売却対象物の更なる開拓。

・次期「廃棄物計画」（廃棄物発生量原単位の削減）策定への対応。

・大きなテーマ設定はありません。日常の小改善、地道な施策を着実に推進していく取組みになる見込み。

・燃えるゴミの分別強化、残飯の削減を継続。目標値は、前年度月平均 2%（26kg）削減する。

・各種廃棄物処理方法の見直しに伴う汚泥、廃プラ、木屑の引き続き減化。

・電気分解による銅イオン回収で廃酸の再利用の継続。

・脱脂液の変更により、廃アルカリの社内処分の実施。

・油漏れ対策、フィルター設置による油延命化による廃油の抑制。

・工場全体での可燃廃棄物の発生量の低減。

・有価物化の推進。

・廃棄物の分別推進。

・廃棄物の削減（廃棄物の分別徹底，汚泥発生量の削減）

・廃油タンクおよび廃油ピットの発生量および発生理由の把握、運用手順類の見直し実施。

・廃ビニール、廃プラスチックの有価物化推進継続と監視強化。

・濃縮廃液発生量の把握と多量発生時の早期原因調査に対する改善策の実施。

・油水分離により廃油の産廃委託量を減らす。

・木製パレットの社内再生により、木くず産廃量を減らす。

・廃酸の社内処理により、廃酸産廃量をゼロにする。

・ソルブル廃油のリサイクル化を検討。

・木くずのリサイクル化を検討。

・リサイクル出来る廃棄物業者の情報収集。

・ゼロエミ維持のための、産廃物分別の維持。

・詳細分別による埋立回避。

・再資源化に向けた、処理業者の開拓。

・最終埋立比率 0.5% 以下を継続。

・パレット・スプールの回収率向上。

・銅酸化スケールからの銅分回収。

・前年度計画を継続(製品出荷後にパレットが返却されない顧客についても簡易梱包)

- ・廃油の有価物化（工場全体で排出される廃油について、有価物として売却可能化の検討を行う。）
- ・最終埋立処分となる汚泥の再資源化（夏・冬の定期清掃時に発生するピット汚泥の発生状況、成分等を調査し、再資源化の検討を行う。）